

咳嗽患者における血液検査での感染症の病原や病勢, アトピー素因の検査陽性率

高尾 匡、金森幸一郎、鈴木藍子、大成裕亮、森山明博、榎本 優、伊藝博士、四竈 純、埴平孝夫
板橋中央総合病院 呼吸器科

【目的】咳嗽患者における血液検査での感染症の病原や病勢、アトピー素因などの検査陽性率を明らかにする。

【方法】2011年4月1日～2012年3月31日に咳嗽で当院外来を受診され、Mycoplasma pneumoniae IgM抗体、Chlamydomphila pneumoniae IgM抗体、百日咳凝集素価を同時に測定した393例で、その陽性率を、また、白血球増多、好中球比率、好酸球比率、CRP値、IgE値について、急性、遷延性、慢性咳嗽、既存疾患に伴う咳嗽にわけて、retrospectiveに検討する。

【結果】症例数:全体/急性/遷延性/慢性咳嗽/既存疾患に伴う咳嗽:392/141/115/62/74、年齢(平均±SD):45±18/38±16/44±16/49±17/58±18。性別(男性数 | 女性数):171 | 221/50 | 91/56 | 59/33 | 29/32 | 42。Mycoplasma IgM抗体陽性率(%):21.4/29.1/21.7/16.1/10.8。Chlamydomphila pneumoniae IgM抗体高値(ID≥1.6)(%):18.9/23.4/22.6/8.6/13.5。百日咳凝集素価高値(≥1280X)率(%):7.1/5.7/8.7/6.5/8.1。CRP≥0.5mg/dl(測定385例での%):20.5/21.9/12.2/16.4/34.7。WBC≥10000/μL(測定388例での%):5.9/10.4/12.2/16.4/34.7。好中球比率≥70%(測定353例での%):22.9/27.7/15.0/13.3/35.8。好酸球比率≥70%(測定353例):8.2/4.2/10.3/10.0/11.9。IgE>170 IU/ml(%)(測定329例):29.2/22.0/30.4/32.2/37.3。急性、遷延性、慢性咳嗽の3群で統計学的に検討したところ、急性、遷延性、慢性の順に年齢が高くなり、男性に慢性咳嗽が多く、女性で急性咳嗽が多かった。クラミジア抗体高値は慢性咳嗽に少なく、マイコプラズマ抗体陽性は急性に多かった。好中球比率≥70%のみが急性で多く、白血球数、CRP、好酸球比率、IgEでは3群間で差がなかった。

【結論】急性、遷延性、慢性咳嗽で、感染症の病原および病勢の検査、アトピー素因の検査の陽性率をそれぞれ明示し、統計学的に解析を行ったので報告する。